

**パレスチナ・ガザの事態に際し、  
イスラエル、ハマスが戦争を即時停戦することを強く要求する**

パレスチナ・ガザ地区ではすでに死者が1万人を超え、その4割は子どもと報じられている。イスラエル軍の地上侵攻と空爆により、病院や難民キャンプ、モスクや国連施設でも被害が広がる壊滅的な事態であり、200万人を超えるパレスチナ人の命の危機が差し迫っている。その状況下、国連総会は即時停戦を求める決議を圧倒的多数で決議したが、日本を含む西側諸国はそれに棄権ないし反対をし、この事態の収束を求める世界の動きを阻害している。

今回の戦争の発端を開いたのはハマスが無差別攻撃により民間人多数を含む多くの人たちを殺害し、200名以上を人質としたことであり、この行為は非難されなければならない。しかし、こうした事態を招いた背景には、イスラエルがガザ周辺の地区を不当に占領し続け、沖合の海上も封鎖するなど、そもそも国際法を踏みにじってきたことがあり、このことを論じない西側諸国の態度はあまりに一方的であり公正さを欠いている。

事態は急を要する。戦争による被害者がこれ以上に生まれることは避けなくてはならない。このような認識から、基礎経済科学研究所は、イスラエルとハマスは戦争を即時停戦することを強く要求するものです。

2023年11月9日  
基礎経済科学研究所理事会